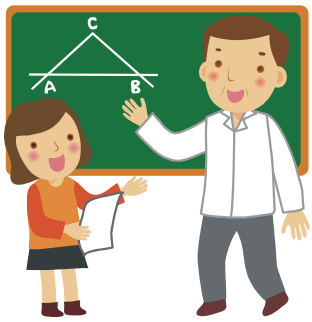
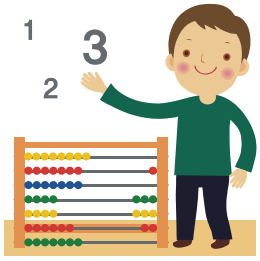
# どの子にもわかりやすい授業をめざして

## 特別な教育的ニーズのある子への配慮が、

## どの子にもわかりやすい授業を作り出す

平成 26 年改訂版　川崎市教育委員会




目次

1. 自分の授業を振り返ってみよう

2. 教室環境をわかりやすくしよう

3. 指導をわかりやすく工夫

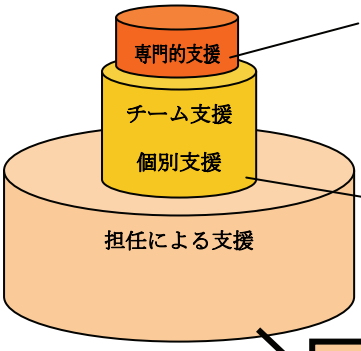
4. 学級のルール作りの工夫

5. 援助しあう学級作りの工夫

6. 子どもの困難さに応じた有効な支援

7. 学級で使える簡単な
ソーシャルスキルトレーニング

### 通常の学級における支援の 3 つのステージ




外部機関との連携
通級指導教室　総合教育センター
特別支援学校コーディネーター

校内委員会で共通理解
関係者チームで支援
取り出し指導・入り込み指導

わかりやすい授業（授業のユニバーサル化）
社会性を育てる学級作り
援助しあう学級作り

子どもの状態に応じた支援の在り方を考えましょう。

### 特別支援教育を活用したわかりやすい授業づくり

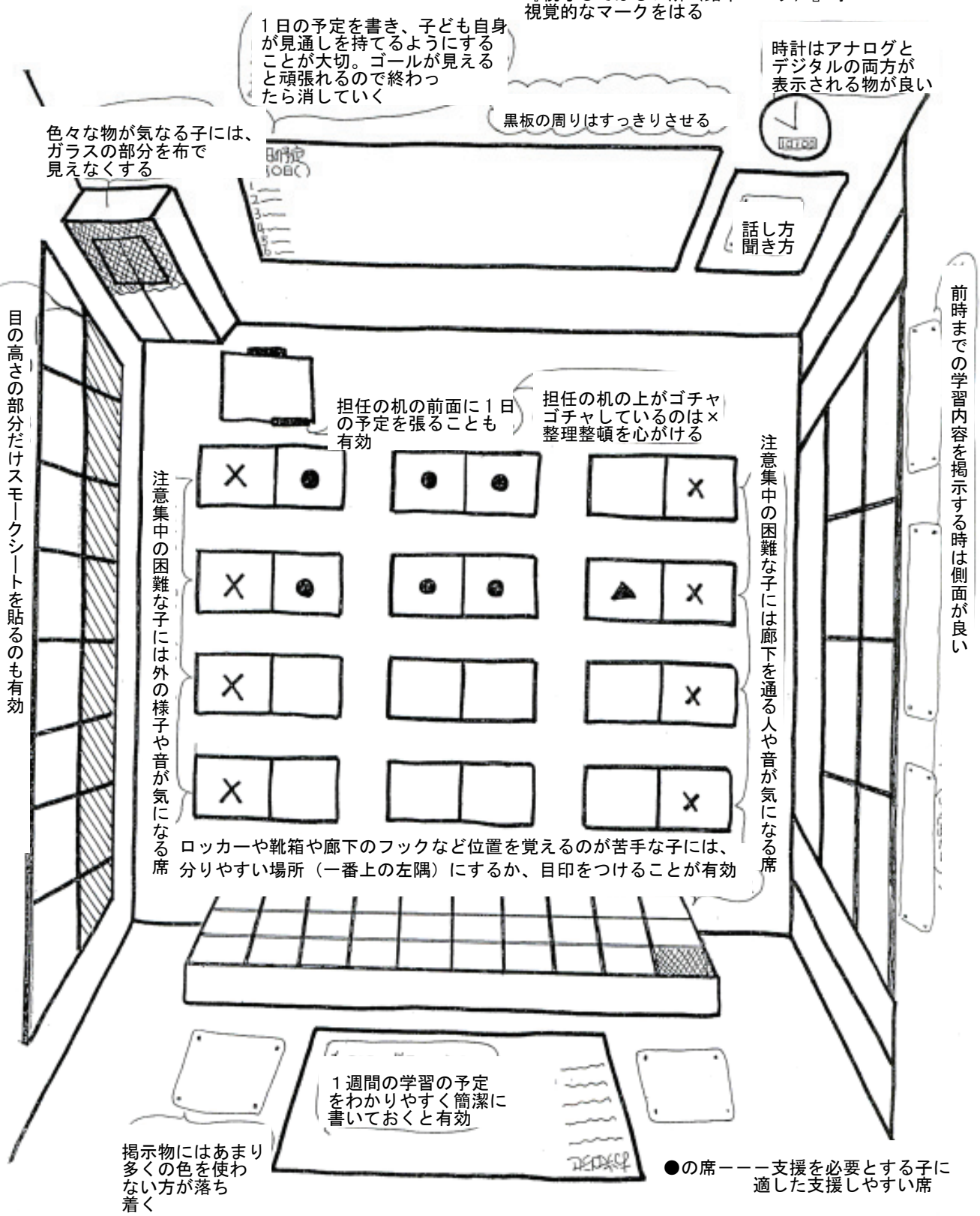
学級の中にいる学習面や社会性の面で困難さを抱え、わずかな支援を必要としている子に気づき、学級の中で、その子にあった配慮を行うことで、授業が多くの子にもわかりやすくなります。また、社会性の未熟な子に対してわかりやすいルールを工夫し、社会性を育てることを意識した指導を取り入れることで、援助しあう学級ができ、それが、授業の質を高める大きな力となると考えます。このリーフレットは、支援を必要とする子への配慮が、多くの子にも授業をわかりやすくするヒントや実践例を紹介しています。学級の状態に応じて必要な情報をご活用ください。

# 1. 自分の授業を振り返ってみよう

| 学級環境 | | チェック |
|---|---|---|
| １．場の構造化 | | |
| | 教室内の整頓を心がけ、必要な物の置き場はできるだけ決めている | |
| | 座席の位置は個々の子の特徴にあわせたものになっている | |
| ２．刺激量の調整 | | |
| | 教室の前面の掲示物は必要最小限に絞る配慮をしている | |
| | 教室のスチール棚等には目隠しをするなど、余計な刺激にならないよう配慮している | |
| | ちょっかいを出す、話しかけるなど刺激しあう子をお互いに離れるような座席位置にしている | |
| ３．ルールの明確化 | | |
| | クラスのルールは、禁止ではなく、みんなが気持ちよく過ごすための「決まり」という観点からシンプルな表現で設定する | |
| | 係や当番とその仕事が明確になるように提示している | |
| | 係や当番の仕事は、手順を表にしていつでも確認できるようにしている | |
| | クラスのルールの確認・評価をできるだけこまめに行なっている（守れた子をほめる） | |
| ４．クラス内の相互理解の工夫 | | |
| | 担任として「困ったことがあれば、いつでも誰でも助ける」という気持ちを子どもたちに伝え、その助け方や応援の仕方は一人ひとり違うという方針を伝える | |
| | 日頃から共生・共育プログラムやソーシャルスキルトレーニングなど社会性や集団作りを促進する活動を行なっている | |
| | 保護者会でクラスの現状とともに、担任の行った手立てとそれによる子どもの変容を必ず伝える | |
| 授業における指導法 | | |
| １．時間の構造化 | | |
| | １日の見通しが持てるように、時間割や活動場所やその変更が黒板等でいつでも確認できるようにする | |
| | 授業の始めに内容や進め方などの見通しを提示する | |
| | 時間を目に見える形で伝えることで、活動の見通しや時間の区切りを自分で意識できるようにする。（タイマーの活用） | |
| ２．情報伝達の工夫 | | |
| | 指示・伝達事項は聴覚的（言語）だけでなく、視覚的（板書等）に提示するようにしている | |
| | 抽象的表現・あいまいな表現をできるだけ避け、具体的な表現に置き換える工夫をする | |
| | 大事なことはメモさせる、メモを渡すなど記憶に負担がかからない方法を工夫する | |
| ３．参加の促進 | | |
| | わからないことがあった子が、担任から助言を受けやすくする工夫を心がけている | |
| | どの子も発表できる機会をもてるよう心がけている | |
| | 課題が終わったら、次にすべきことを用意するよう心がけている | |
| | 集中の持続が可能なように、課題の内容や取り組み方に少しずつ変化をもたせるよう心がけている | |
| ４．内容の構造化 | | |
| | 必要があれば、板書やワークシートで学習の進め方や段取りがわかるように工夫している | |
| | 子どもがつまずきそうな課題は、学習内容の細分化（スモールステップ化）を行なっている | |
| | 授業がスムーズになるよう、時には、授業の進め方にある程度のパターン（例：課題提示→ワークシート記入→グループ討議→話し合い）を導入している | |

（「通常学級での特別支援教育のスタンダード」東京都日野市公立学校小中学校全教師・教育委員会・小貫悟編著　東京書籍発行）を参考に作成

# こんな教室環境を考えてみました




●の席－－－支援を必要とする子に適した支援しやすい席

▲の席－－－緒に作業のできる子や学習や行動の見本になる子が周囲の席にいると効果的（その子の負担を考え定期的に交替）

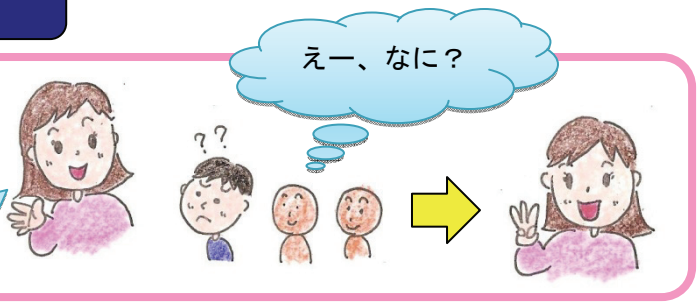
教室はできる範囲ですっきりした配置を心がけましょう。

○足が床につかない場合は、電話帳をガムテープ等で留めて足台にする
○椅子の足に布等を付け音を軽減する
○低学年なら、お道具箱に道具類の配置シートを入れる

# 3. 指導をわかりやすくする工夫

## 説明する時の工夫

体操服に着替えて、体育館ね。その前にプリントは出すこと。




☆長い文で話したり、「その前に」などの言葉が入ったりすると伝わらないことがある。

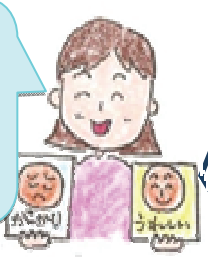
**工夫１**
まず、注意を促してから話す。
＊声のトーンを変える。
＊話を聞く時のサインを決める。

先生が人差し指をたてたら、「お話しします。」という合図です。

**工夫２**
やることを順番に話す。

やることは３つ
１プリントを出す
２体操着に着替える
３体育館に行く　です。

男の子の気持ちはどっちでしょう。

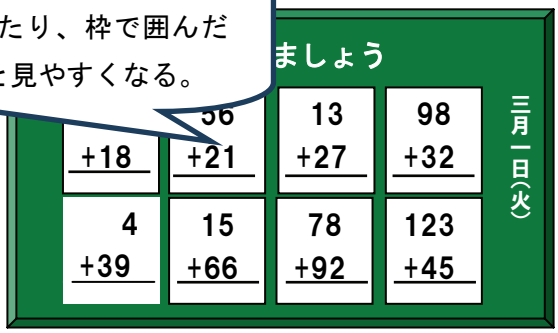


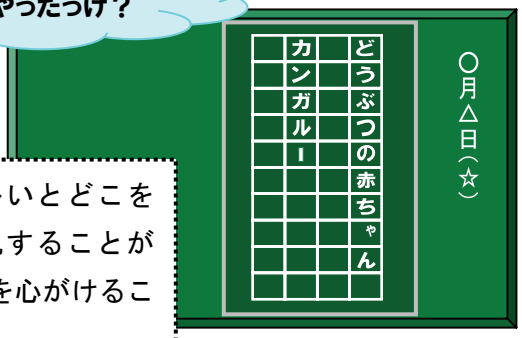

**工夫３**
絵や箇条書きなど目で見てわかりやすいものを使う。

短期記憶の保持が苦手な子には、音声の指示はすぐ消えるが、視覚的指示（文字や絵）は残り、後で何度でも確認できる。

## 板書する時の工夫

**工夫１**
計算問題を間を空けて書いたり、枠で囲んだり、白い紙に書いたりすると見やすくなる。






文字や数字の量が多いとどこを写しているのか混乱することがある。見やすい工夫を心がけることが大切。

**工夫２**
子どものノートと同じマスの小黒板を使うと板書が楽になる。

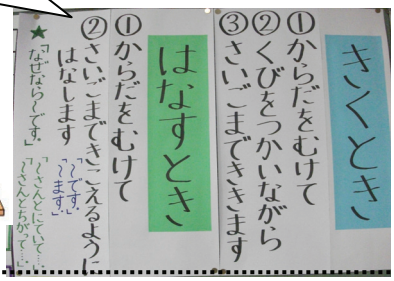
# 4、学級のルール作りの工夫

## 学習ルール（時間・発言の仕方・授業に向かう姿勢）

**工夫１**
聞き方や話し方など基本的ルールを具体的に箇条書きにして掲示。

**工夫２**
場に応じた声の大きさを視覚的にわかりやすく掲示。

授業力向上に取組んでいる下平間小学校では、『授業の基本ルール』や『１年生のうちに身につけさせたい学習ルール』や『話し合いができるための基本ルール』を教師間で話し合い統一して１年生から積み重ねて指導しています。

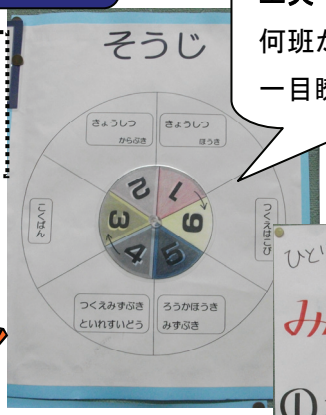


注意されることの多い子は、ルールを押し付けるのではなく、守れた時をきちんと評価すること。帰りの会等で、守ったことをお互いに認めあうことで、次も頑張ろうという姿勢が育つ。

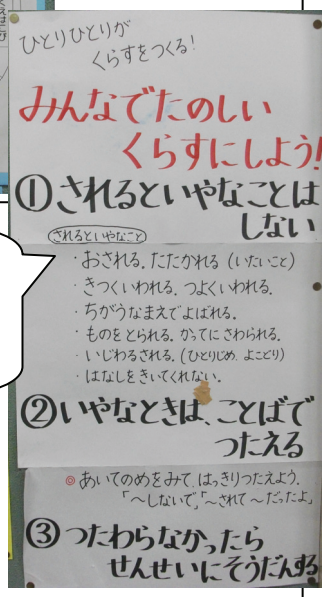
## 生活ルール（身の回りの整理整頓・係の仕事・当番活動等）

視覚支援でやり方がわかるようにするなど、その子に応じた支援の工夫が大切。また、頑張ったことやできたことを表などでチェックすることで、自分の頑張りを確認できるようにすることが大切。

**工夫１**
何班がどこをやるか一目瞭然な当番表。



**工夫２**
机の横に**とりあえず袋**をかけて、机の上の物を片付ける。




# 5、援助しあう学級作りの工夫

## 子ども同士の助けあいを作り出すには

**工夫１**
学級ルールを具体的に掲示し、日常的に確認する。

まずは教師が関わり方やことばかけの見本を示す。 → 子ども同士の場合は注意というより見守る姿勢を育てる。 → 上手な関わりをしている子どもを取り上げ評価し、学級に広げる。

### 学習の中で

わからない時はサインを出して…

学級は間違えるところ。

**工夫２**
**学びあいタイム**――算数などで子ども同士で教えあう時間を設定する。

### 生活の中で

今日のがんばり屋さんを発表します。

日直から一言
キラリさんは…

掃除の班長さんから一言、頑張ったところは…

良いとこみつけ
〇さんに～してもらってうれしかったよ。

# 6. 子どもの困難さに応じた有効な支援

## 興奮しやすい子

☆指導の方針☆

〇興奮を引き出す原因を除去する。

〇自尊感情を高め、自己コントロール力を育てる。

〇興奮状態に対する適切な対応を共有する。

**・情報を集めて興奮状態の予防に努める**

パニックを起こす原因としては、たとえば次のようなことが考えられる。

・予定の変更に対応することが難しい、活動の見通しがもてない。

・周りの子が興奮をあおる。

・特定の刺激（音・触感・暑さ・空腹など）がつらい。　　など

**・注意はシンプルに、達成可能な課題設定でほめることを増やす**

大きな声で注意することも興奮させる刺激になることがある。

普段から頑張ったことや我慢したことをほめることが大切。

**・落ち着いてから、適切な対応を考えさせ、失敗をリカバリーさせる**

本人が安心できる静かな場所で怒りの感情を受けとめ、落ち着いてから適切な行動を考え、実践させる。

**Q・それでも興奮がおさまらないのはなぜですか？**

A・（１）「疲れ」のサインかもしれません。

⇒大人が気づかないだけで、がまんにがまんを重ねていることが多いです。

休憩・ペースダウン・ゆっくりとしたコミュニケーションを心がけます。

（２）本人が外傷体験（何をやってもうまくいかない、どうせ自分なんかといった自信の無い状態）にあるかもしれません。日頃から、良いところを認め、自尊感情を高める関わりが大切です。

⇒孤立させないことが重要。本人の気持ちと直面している状態を正しく把握し、関係者全員で、その子の発達にあった関わりや生活環境を整える工夫をすることが大切です。

## 注意集中の難しい子・落ち着かない子

☆指導の方針☆

〇教室環境を整える

〇スモールステップで自信をつけ自己調整力を育てる。

**・学習環境の刺激を減らす**

掲示物や雑音や刺激となる友達を調整する。

**・今やるべき課題をわかりやすく伝える**

本人が聞く姿勢を見せているのを確認して、指示は短く・わかりやすく・ゆっくり話してみる。

**・課題の量や時間を調整**

一度に提示する課題の量を少なくする。取組む時間を短くし、終わりの時間を明確に伝える。

**Q・いくら指導しても落ち着かず、集中できないのですが？**

A・集団では衝動性が増し抑制しにくく、集中も難しいかもしれません。まずは集団に慣れ、本人が適応できる環境を作ることから始めます。叱責や注意が重なると劣等感を持ち、さらに問題が起こりやすくなります。集中力が維持できずに学習や社会性の習得が遅れる場合は個別指導が有効です。

## 社会性や対人関係が苦手な子

☆指導の方針☆

〇見通しを持たせ、指示をわかりやすくし混乱を防ぐ。

〇静かに困っている（言語化できない）子に気づく。

〇周りの子の理解を促進し、効果的な対応を教え、優しい環境を作る。

**・１日のスケジュールや活動の内容（手順・量・時間）を示す**

流れの見通しが立つことにより、不安が解消し落ち着いて行動できる。

「もうすこしがんばれ」よりも「あと10個作ろう」「10時30分まで練習します」など具体的な指示が有効。

**・指示にはできる限り視覚的手がかりを添える**

言葉だけでなく、図や手順を板書したり、見本を見せたり、メモを渡すことで、理解度が高くなる。

**・指示はシンプルかつ具体的に**

単に「ダメ！」（否定）ではなく、「〇〇をします」と何をするのか肯定的・具体的に伝える。

**・人との関わり方を具体的に教える**

大声や暴力ではなく、言葉で要求を伝える方法を教え、練習し、実際の場面で活かす。

困った時のＳＯＳの出し方を具体的に教える。

表情の読み取りや、相手の気持ちを選択肢で考えるなど対人理解を育てる。

**・普段のコミュニケーションを大切にし、担任が信頼できるキーパーソンに**

あいさつ、目配せ、ボディランゲージ、笑顔、明解な理由、ポジティブな声がけ・行動。

**Q・原因がわからずイライラしていることがあるのですが？**

A・感覚過敏・鈍感があり、触られることや大きな音がものすごく不快に感じることがあります。

・身体認知の混乱（機能的に運動が苦手・不器用）で運動や手先を使った活動に苦痛や不快に感じていることもあります。また、体温調節が苦手な子も多く、暑さや寒さで体調が悪くなっていることがあります。

## 学習で困難をかかえる子

☆指導の方針☆

〇得意な学習スタイルを活かした学習の工夫。

〇困難さへの共感と自信を失わないように励ます。

**・読みが苦手な子への支援**

読みが苦手な子には事前に読む部分を教えておく。

一斉音読の時、文字を指でたどったり、定規で読む行をガイドしたりすることを認める。

プリントを作成する時は１２ポイント以上のゴシック体を使って、分かち書きに。

漢字は成り立ちなどその意味を関連付けることで覚えやすくなることがある。

**・書くことが苦手な子への支援**

板書もプリントも２～３色までにする。

プリントを作成する時は、文字を書かせる欄に子の状態に応じたサイズのマス目や罫線を入れておく。

大きく空書きしたり、砂・フェルト・コルク板などに指で文字を書いたりして、体の動きや指の感覚を通して文字の形を覚える。

**・デジタル教科書の活用**　　デイジー図書に関するホームページ（http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/）

日本障害者リハビリテーション協会に申請し、配布されるデイジー教科書は、音声での読み上げ・文字の拡大・文字や地の色の変更が可能で弱視の子ばかりでなく読むことが苦手な子にも有効です。

# 7. 学級で使える簡単なソーシャルスキルトレーニング

## 静かな状態を確認しよう！

「静かに！」という指示をよくしがちですが、子ども達の中には「静かに」の意味がよくわからない子がいるので、ゲームを通して静かな状況・状態を確認する。

**1分間ゲーム**　声を出さない約束をして、子ども達は全員目をつぶり、教師のスタートの合図から心の中で１分間計測し始める。１分間経過したと思った時点で、そっと手を挙げる。大体１分の子を紹介し、拍手する。その後、静かな状態を全体で確認する。

今、心の中で１分間計っていた時、
教室がとても静かだったね。
この状態が「静か」な状態です。
「静かに」と言われたら、この状態
になろうね。お話は心の中ですると
いいんだね！

## 話を聞く姿勢を身につけていこう！

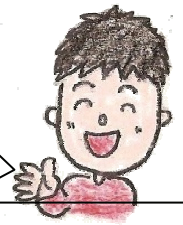
話を聞くことはとても大事なこと。まずは**「何かしていている途中でも一度止める」「話をする人の目を見る」「思いついたことはその場で話さず、話が終わってから話す」**など**話を聞く時のルールを確認**する。その後、それらのルールを守りながら話を聞く経験を積む。朝の会など、話を聞く機会に実践し、上手にできたことを評価し定着を図ることが大切。（静かに話を聞けている子をほめる）

**きくきくキーワード**　話の前にキーワードを伝える。話を聞きながら、そのキーワードが何回出てきたか数え、答える。似たような言葉をあえて入れるのも面白い。

**○×クイズ**　話を聞いた後、内容にそった○×クイズに答える。

**聞き取りクイズ**　話を聞いた後、内容にそった問題（「どこに行きましたか？」など）に答える。あらかじめ問題用紙を配っておくことで、ポイントを押さえながら話を聞く姿勢も身につく。
また、一度問題を解いた後にもう一度同じ話をすることで、答えを確認しながら聞いたり、わからない問題をさらに絞って聞いたりする経験も育つ。

ゲームを通してソーシャルスキルを学ぶ方法が主流となっていますが、**楽しかったという経験だけで終わらせない**ようにしたいですね。
その後の学校生活の中で、その**ソーシャルスキルを意識して活用させる**ことが大切です！



問い合わせ先：川崎市教育委員会指導課　支援教育担当　　０４４－２００－０３６４
川崎市総合教育センター（特別支援教育センター）０４４－８４４－３７００